

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

遊びや生活の中で現れる様々な幼児の姿は、その幼児の発達のほか、家庭環境や園内の状況など、様々な環境的要因が影響している。この授業では、乳児期からの発達を踏まえながら幼児理解の視点と方法を学んでいく。公認心理師、臨床心理士として病院や保健相談所における発達・心理相談の実務経験を活かし、現代的課題を踏まえての幼児理解と基本的な対応の方法、共感的理解の意義や方法について講義する。事例検討を通して、幼児教育の実践方法を学ぶ。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（授業の進め方、評価方法などについて）／幼児教育の基本となる幼児理解
第 2 回	幼児の発達と現代的課題の特徴：統計資料や保育実践に関わる研究知見からの理解
第 3 回	幼児理解の意義と理論①：共感的理解と保育者の基本的姿勢
第 4 回	幼児理解の意義と理論②：個と集団の関係の中で育つ幼児の姿を捉える意義
第 5 回	幼児理解の意義と理論③：遊びや生活の中で幼児の発達や学びを捉える理論
第 6 回	幼児理解の意義と理論④：保幼小をつなぐ理解
第 7 回	幼児理解の方法①：観察・面接・質問紙・検査
第 8 回	幼児理解の方法②：幼児理解の目的に応じた記録と共有
第 9 回	幼児理解の方法③：保育者の自己理解と保育の改善
第 10 回	幼児理解の方法④：いざこざやつまずきにおける幼児の内面を捉える視点
第 11 回	幼児理解の方法⑤：保護者との連携と家庭環境の理解
第 12 回	幼児教育実践①：気になる子どもの理解と
第 13 回	幼児教育実践②：特別な配慮を必要とする子どもへの理解と援助
第 14 回	幼児教育実践③：保護者との関係づくりと子育て支援（カウンセリングの基礎的な姿勢や技法）
第 15 回	幼児教育実践④：地域の幼児の生活に関わる専門機関との連携の意義と園内の協力体制
第 16 回	定期試験

到達目標

園における幼児の生活および遊びの実態に即して、幼児の発達と学び、並びにその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理および対応の方法を、幼児教育の計画と評価という保育の営みとの関係の中で考えることができる。

履修上の注意

授業は講義形式で行うが、ワークやグループディスカッション等を用いて進めていくので、積極的に参加すること。

予習・復習

次回授業で学ぶ単元についてテキストに目を通して予習すること。授業で提示されたキーワードについて調べておくこと。

授業後には、授業中に指定された重要語句について復習し、参考文献なども用いて理解を深めること。

評価方法

授業での取り組み（40%）、期末試験（60%）によって行う。

授業での取り組みについては、授業で課すレポートなどの評価・提出状況、および授業態度なども考慮する。

テキスト

- 教科書名：乳幼児教育・保育シリーズ：幼児理解の理論と方法
- 著者名：神長美津子・岩立京子・岡上直子・結城孝治（編著）
- 出版社名：光生館
- 出版年：2019年（ISBN：978-4-332-70189-7）